

よりよい社会をつくろうとする子供の育成

～社会的事象の見方や考え方をうい、社会認識を深める学習～

日 時 平成28年6月28日（火）第5校時

13:25～14:10

対 象 第6学年1組 31名

学校名 足立区立千寿小学校

授業者 主任教諭 幸地 裕助

会 場 3階 6年1組教室

1 小単元名 「全国統一への動き」（全8時間）

2 小単元の目標と観点別評価規準

（1）小単元の目標

戦国時代と江戸時代の図から、戦いのない世の中になるまでの過程に関心をもち、年表やグラフなどの資料を活用することを通して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まりについて調べ、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の3人の武将の働きにより、戦国の世が統一され、家康が江戸幕府を開き、安定した武士による政治の基礎を築いたことが分かるとともに、3人の武将が戦いのない世の中を目指して取り組んだ働きの意図や願いを考えて表現することができる。

（2）観点別評価規準

評価の観点	評価規準	学習過程のどこで
社会的事象への 関心・意欲・態度	① 戦いのない世の中を目指して取り組んだ3人の武将の働きに関心をもち、意欲的に調べ、考え、表現しようとしている。 ② 3人の武将が、どのような意図でそれぞれの城を築城したのかについて関心をもち、意欲的に調べ、考え、表現しようとする。	調べる ふかめる
社会的な 思考・判断・表現	① キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まりによって、戦国の世が統一され、戦いのない世の中になったことについて、学習問題を考え表現している。 ② キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まりについて調べたことを比較したり関連付けたりすることで、3人の武将の抱えた戦国の世の課題、意図や願い、働きを考え、話し合いをしたり、吹き出しに書き表したりして適切に表現している。	つかむ まとめる
観察・資料活用の 技能	① 戦いやまちの様子がわかる屏風絵や想像図、3人の武将の年表や勢力図などの資料を活用して、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まりなどの歴史的事象や、3人の武将の働きや意図について、必要な資料を収集・選択し、読み取っている。	調べる

社会的事象についての知識・理解	① 3人の武将の働きにより、戦国時代から戦いのない世の中になったことを理解している。 ② 戦国の世が統一され、安定した武士による政治の基礎がつけられたことを3人の武将の業績や考え方などから理解している。	調べる 調べる、まとめる
-----------------	--	---------------------

3 小单元について

本小单元は、学習指導要領第6学年の内容(1)のオを受けて設定されている。戦国大名の群雄割拠の状態から、豊臣秀吉が全国統一した後、江戸幕府が政治を行った時代に至るまでの時期のうち、キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国の五つの歴史的な事象を取り上げ、これらを具体的に調べることを通して、戦国の世が統一され、身分制度が確立し、武士による政治が安定したことが分かるようにすることをねらいとしている。

本小单元では、織田が戦い方を工夫し、短い期間に領土を拡大したことや、豊臣秀吉が検地や刀狩などの政策を行って全国統一を果たし、徳川家康が江戸幕府を開いたことにより、それまでの武士の政治とは違い、その支配が全国に及んだ長い期間、戦いのない世の中になった基礎を築いたことが分かるとともに、3人の武将の業績や、意図を調べる活動を通して、それぞれの戦いのない世の中に向けた願いについて考えられるようにする。

4 児童の実態

(省略)

5 学年の研究主題との関連

(1) 社会認識を深め、参画意識を培う教材の開発

① 戦国の世の移り変わりをとらえさせる教材(「つかむ」:第1時)

本小单元では、つかむ段階で長篠の戦いと江戸図屏風の一部(城の周りの様子)を比較させる。2枚の絵図から、戦いのない世の中になったことを押さえた後に、グラフ資料(10年ごとの国内内乱の数)を組み合わせることで、当時の日本人がどのようにして戦いのない世の中にしていったのか、問題意識を高めさせることができると考えた。

② 戦国の世から、戦いのない世の中にしようと努力する人々の姿が見える教材

(「調べる」:第3、4、5時「ふかめる」:第7時)

調べる段階では、戦国の世において天下を統一しようと努力する織田信長、豊臣秀吉、徳川家康といった人物を教材として取り上げる。戦いのない世の中をつくるために努力する人々の業績や、意図や願いについて考えることのできる資料を提示する。

また、ふかめる段階では織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が各々築き上げた城を教材として取り上げる。城や城下町を、どのような意図や願いで作っていったのか、既習したことを活用しながら予想し、調べることで、城作りにも3人の武将の思いが込められていることに気付かせる。

(2) 社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫

① 学習問題を基に学習計画を主体的につくる活動(「つかむ」:第2時)

つかむ段階で学習問題に対する予想を個人で立てさせる。予想を十分に立てさせることで、主体的に「追究する活動」を展開するための手だてとなる。その予想を確かめ、学習問題を解決するために調べることを年表(学習問題を意図して、3人の武将がどのような意図や願いで天下統一を目指したかがわかる

よう精選)から概観させる。それを分類・整理することによって調べる見通しをもち、協働的に追究する活動を行うことができると考えられる。

② 社会認識を深める話し合いの活動(「ふかめる」:第7時)

「ふかめる」段階では、「3人の武将は、城をどのような意図で建てたのか」という問いについて考えさせる。既習内容を基に一人一人が考える場面を設定する。この考えを友達と話し合うことで、3人の武将が抱えていた課題の違いを再確認することができる。また、3人の武将の城下町作りについて調べ、話し合う活動を確保する。「戦いのない世の中」だけではなく、人々のくらしが豊かになることを目指すのも政策の一つだったことに気付かせる。

(3) 社会認識の深まりや社会参画への思いを見取る評価の工夫

① まとめる段階、ふかめる段階での評価規準と手だて

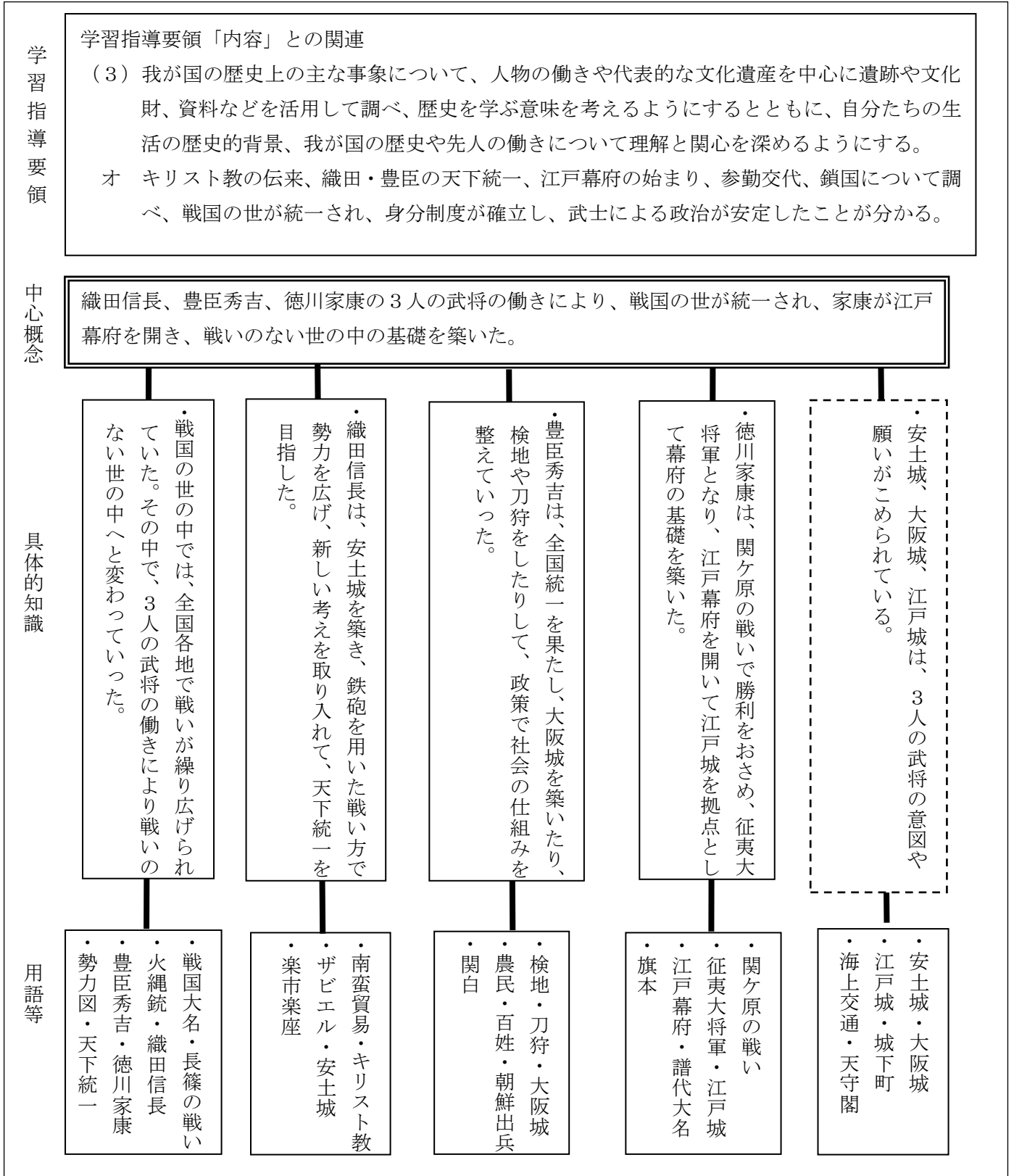
本小単元で育てたい子供の姿に迫るために、「まとめる」「ふかめる」段階において、次のように評価規準とつまずきに対する手だてをそれぞれ考えた。

	「まとめる」段階	「ふかめる」段階
評価規準	3人の武将が、戦いのない世の中にするために行った業績の意図や願いについて考え、適切に表現している。	城作りは、戦いのためだけではなく、それぞれの武将の意図が込められていることについて考え、適切に表現している。
評価規準を達成した児童の姿(例)	信長は新しいものを取り入れて天下統一を目指し、秀吉は天下統一を果たして社会の仕組みをつくり上げ、家康は江戸幕府の基礎をつくった。	3人の武将は、天下統一のための城作りを、それぞれの置かれている立場に合わせて行った。また、城下町を見ると、3人の武将が国をより良くしていこうとする意図が分かる。
つまずきに対する手だて	3人の業績をキャッチフレーズに表すことができない。 →3人の業績を全体で確認し、3人に共通するできごとや政策についての振り返りをする時間を確保する。	3人の武将が城を建てた意図を予想できない。 →前時までのノートを確認し、3人の武将の吹き出しから、意図や願いを手がかりにして、城作りで大切にすることを予想させる。

② ホワイトボードを活用した話し合い

グループでの話し合いは3人～4人の少人数のグループで行い、内容をホワイトボードに書かせる。話し合いの内容を視覚化することで、児童の話し合っている内容が整理され、話し合いの質が高まる。また、教師は、話し合いの流れや話し合った内容が把握しやすくなり、その後の指導に生かしたり、評価に生かしたりすることができる。ホワイトボードの書かせ方としては、キャッチフレーズにまとめる方法や関連図にまとめる方法等、話し合いの内容に合わせて工夫する。

6 知識の構造と育てたい子供の姿



育てたい子供の姿

3人の武将の業績を調べ、意図や願いを考えることを通して、戦国の世から戦いのない世の中へと変化した背景について理解するとともに、平和な世の中をつくらうとすることへ関心を高められる子供

7 小単元の指導計画（7時間扱い）

	◇ねらい	○学習活動 ・期待する児童の反応	□教材の工夫 ○指導の工夫 ◆評価【観点】
つかむ①	◇長篠の合戦図と江戸図屏風の城周辺の様子を比較し、気付いたことを基に学習問題をつくり、予想を立てる。	○長篠合戦図の城周辺の様子から気付いたことについて話し合う。 ・よろいを着て戦っている。 ・城の入り口が一つ。 ○江戸図屏風の城周辺の様子と長篠合戦図の城周辺の様子を比較し、気付いたことを話し合う。 ・戦っていない ・城が立派になっている。 ○資料（10年ごとの国内内乱の数）から、国内の内乱の数が1580年をピークに減少していることに気付く。 ○これまで学習したことから、疑問に思ったことなどを出し合い、学習問題をつくる。	□長篠の合戦図（城周辺） □江戸図屏風（城周辺） ○人、建物、土地の様子から時代の変化に気付かせる。 □10年ごとの国内内乱の数（棒グラフ）
どのようにして戦いのない世の中になったのだろう。			
		○学習問題について予想を立てる。 ・信長、秀吉、家康が戦いを収めた。	
つかむ②	◇前時に立てた予想を振り返り、学習問題を解決に導くための学習計画をつくる。 (本時)	○前時に立てた学習問題についての予想を振り返る。 ○年表を基に、どのようなことを調べたら学習問題の解決につながるのか考え、グループで話し合う。 ・信長は、どのようにして武田軍を破ったのか調べよう。 ・なぜ、秀吉は刀狩りを行い、キリスト教を禁止にしたのか調べよう。 ○調べることを全体で整理し、それぞれが何を目的としているのか整理をする。 ○学習計画をつくる。	□年表（1543年～1615年） □3人の武将の肖像画 ○年表を活用することで、時代の概観をとらえ、これから調べることを考えられるようにする。 ○調べることをグループで話し合い、整理して短冊に書くことにより、学習計画をつくりやすくする。
調べる①	◇織田信長が、安土城を築き、鉄砲を用いた戦い方で勢力を広げ、新しい考えを取り入れて天下統一を目指したことが分かり、その働きの意図や願いを考える。	○織田信長の勢力図をスライドショーで見る。 ・最初は変化があまりないのに、最後は勢いよく広がってきている。 ○学習課題に対する予想をする。 ・鉄砲をたくさんつくった。 ・たくさん戦争をした。 ○資料から信長の行ったことを読み取る。 ・南蛮貿易をして外国との輸出入を盛んにした。 ・安土城を建設して天下に自分の力を示した。 ・楽市・楽座をして、商業を盛んにした。 ・キリスト教の保護を行って、仏教勢力を抑えた。 ○学習した内容を基に、信長の意図や願いを考えて吹き出しに書き、発表し合う。	□信長の肖像画 □信長の勢力の広がりを表した勢力図 □信長に関する年表 □ザビエルの肖像画 ○3枚の勢力図の年と領地の範囲を確認し、短い間に力を拡大したことを読み取らせる。 ○洋服の肖像画から外国との交流が盛んであったことを読み取らせる。 ○友達と発表し合い、比べることで新しいものを取り入れた信長の意図に気付かせる。

調べる②	<p>◇豊臣秀吉は、全国統一を果たし、大阪城を築き、検地や刀狩をして、社会の仕組みを整えていったことが分かり、その働きの意図や願いを考える。</p>	<p>○勢力図や年表から、秀吉が強大な勢力を背景に全国を平定するために、どんなことを行ったのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検地を行い、年貢の量をしっかり計れるようになった。 ・刀狩を行い、農民に刀や鉄砲を持たせなかった。 ・大阪城を作り、全国に自分の力を示した。 ・キリスト教を禁止にした。 <p>○秀吉の政策の意図について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検地をすることで、毎年決まった量の税を受け取ることができる。 ・刀狩をすることで、百姓が反乱をすることが無くなる。 ・大阪城を作ることで、大名や他の勢力に対して力を見せつけ、従わせることができる。 <p>○学習した内容を基に、秀吉が全国を統一した意図や願いを考えて吹き出しに書き、発表し合う</p>	<p>□秀吉の肖像画</p> <p>□秀吉の勢力の広がりを表した勢力図</p> <p>□秀吉に関わる年表</p> <p>□検地の想像図</p> <p>□年貢升、検地尺</p> <p>□刀狩令条文（解説）</p> <p>○検地は、升を統一することで決まった量の年貢が収められるようになったことに気付かせる。</p> <p>○検地や刀狩によって社会の仕組みができていったことに気付かせる。</p>
調べる③	<p>◇徳川家康は、関ヶ原の戦いで勝利を治め、江戸幕府を開いて江戸城を拠点として幕府の基礎を築いたことが分かり、幕府を開いた家康の意図や願いを考える。</p>	<p>○関ヶ原の戦いの絵図をきっかけにして家康が全国支配を確立した過程について疑問をもち、資料を基に調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関ヶ原の戦いは、全国の名を二分した大きな戦いで、家康側（東軍）が勝利した。 ・家康は征夷大將軍となつて、江戸に幕府を開いた <p>○江戸の城下町について、屏風絵や町の広がりを表した地図から調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人がたくさん住んで活気がある。 ・町人のまちもつくられ、平和になった。 <p>○幕府の仕組みを調べ、家康が江戸幕府を開いた意図や願いを考えて吹き出しに書き、発表し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老中の仕組み、一国一城令等をつくつた。 	<p>☆家康の肖像画</p> <p>☆関ヶ原の合戦図屏風</p> <p>☆江戸図屏風</p> <p>☆江戸のまちの広がり（地図）</p> <p>○関ヶ原の戦いで西軍から東軍への味方する大名がいたことを押さえ、家康を支持する大名が多かつたことに気付かせる。</p> <p>○江戸図屏風は徳川家光のころの江戸の様子だが、家康のまちづくりが基礎になっていることを補足説明する。</p> <p>○譜代大名や旗本の意味を押さえ、江戸幕府の体制づくりに気付かせる。</p>
まとめる①	<p>◇3人の武将の業績を振り返り、学習問題の答えを考える。</p>	<p>○これまで学習してきたことを、全体で振り返りながら、3人の武将の働きから共通点と、それぞれの政策について注目する。</p> <p>○3人の武将の働きをキャッチフレーズに表す。（個人→3人グループ→全体）</p> <p>○天下餅の絵とうたを紹介し、自分たちのキャッチフレーズと比較する。</p>	<p>○これまでまとめてきたノートを活用し、人物の業績を振り返って考えさせるようにする。</p> <p>○キャッチフレーズの説明を友達同士で交流することで、新しい発見に気付かせる。</p> <p>☆天下餅の絵とうた</p>
ふかめる①	<p>◇3人の武将が築城した城に関心をもち、それぞれの城がどのような意図で建てられたのか考える。</p>	<p>○3人の武将が建てた城は、どのような意図で建てられたのか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・信長は、敵から攻められにくい城を築いた。 ・秀吉は、信長の後を受け継ぎ天下をねらっていたから、大きくて派手な城を築いた。 ・家康は戦いを意識しなくてもよい城を築いた。 ・信長は、安土城を山城ではなく、当時では珍しい平らな土地に築城している。城下町に家来を住ませた。 ・秀吉は、信長の失敗から、小田原城のような敵が攻めにくい城を築城した。海上交通を含めたまちづくりを行っている。 ・家康は、白色（平和を強調した色）の城を築城した。戦いは意識していない。武士だけではなく、大名を江戸に住まわせている。 <p>○学習したことを基に、学習課題を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの城作りは、戦いのためだけではなく、それぞれ思いがあつて城を作つ 	<p>☆信長、家康、秀吉の肖像画</p> <p>☆3つの城（安土城、大阪城、江戸城）の絵</p> <p>☆3つの城の資料</p> <p>○これまでまとめてきたノートを活用して、人物の業績を基に城作りのこだわりを予想させる。</p> <p>○戦いだけではなく、経済的な発展にも尽力したことを気付かせる。</p>

		た。	
--	--	----	--

8 本時案の学習（7時間扱いの2時間目）

(1) ねらい

- ・学習問題を解決に導くための学習計画を年表から概観をとらえ、それを基に考えることができる。

(2) 本時の展開

<p>○主な学習活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予想される児童の反応 	<p>※資料 ◆指導上の留意点</p> <p>◇評価規準</p>
<p>○前時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時は、「どのようにして戦いのない世の中になったのだろう」という学習問題をつくった。 <p>○学習問題に対する予想を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強い武士が現れて、戦のない世の中にした。 ・戦ってはいけないきまりをつくった。 <p>○本時のめあてを確認し、ノートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は学習計画をつくる時間だ。 	<p>◆前時のノートをもとに、ふりかえらせる。</p> <p>◆前時に書かせた予想の中から、3～4人を選び発表させる。</p>
<p>学習計画をつくろう。</p>	
<p>○年表から時代背景を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の活躍で戦いのない世になった。 ・織田信長は、戦が多い。 ・豊臣秀吉は、様々な政策を実施している。 <p>○調べることをノートに書き、それをグループ内（3人）で話し合いながら短冊にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長の強さの秘密。 ・3人の武将の行った政策について。 <p>○各グループから出た短冊が、どのようなグループに分けられるのか、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・織田信長の戦い方 ・どのような国にしたかったのか ・どのような町づくりをしたかったのか。 	<p>※年表</p> <p>◆年表には、戦いの部分だけ色分けをすることで、その他の視点で見えていけるよう意識付けを行う。</p> <p>◆2～3人を、机間指導の中で選び発表させる。</p> <p>◆話し合いの際には、調べる事として選んだ理由も話すよう声かけをする。</p> <p>◆短冊にまとめる際には、何を調べたら良いか整理グループ内で整理して短冊に書くよう声かけをする。</p> <p>◆児童から出てきた短冊を、観点別に分ける。</p>
<p>○学習計画をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人の武将の戦い方の工夫。 ・どのような町づくりをしたのか。 ・どのようなきまりをつくったのか。 ・外国との交流 	<p>◇戦の多い世から、戦のない世の中への変化について予想し、学習計画を考えている。</p> <p>【思・判・表】（ノート）</p>

(3) 板書計画

<p>めあて 学習計画をつくる</p>	<p>学習問題 どのようにして戦 いのない世の中 になったのだろうか。</p>	<p>○どんなことを調べたら学習問 題の解決につながるのか。</p> <table border="1"><tr><td>短冊</td><td>短冊</td><td>短冊</td></tr><tr><td>短冊</td><td>短冊</td><td>短冊</td></tr><tr><td>短冊</td><td>短冊</td><td>短冊</td></tr><tr><td>短冊</td><td>短冊</td><td>短冊</td></tr></table>	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	短冊	<p>学習計画</p>
短冊	短冊	短冊													
短冊	短冊	短冊													
短冊	短冊	短冊													
短冊	短冊	短冊													
<p>予想</p>	<p>年表</p>														